

フォーラムニュース Vol.49 2023 4/25

発行：「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責：大竹永介

昨年の安倍元首相狙撃事件につづいて、今度は現職の岸田総理が爆発物を投げつけられるという事件が起きました。まだその動機等、詳しい背景はわかっていませんがいずれにしても「テロ」が否定されるべきものであることはいうまでもありません。しかし、今回もまた各方面、とりわけ政権与党からあがった「民主主義の根幹を覆すもの」という言葉に違和感を覚えられた方もあったのではないのでしょうか。公文書の改竄、捏造、解釈変更による防衛政策の大転換……それらもまた「民主主義の根幹を覆すもの」とはいえないのでしょうか。「民主主義」とは何なのか？ 元福音館の編集者でありフォーラム実行委員の澤田精一氏から日本と民主主義についての原稿をお寄せいただきました。ご一読ください。（編集部）

《フォーラムエッセイ》

日本そして民主主義

澤田精一

高校生の頃、この日本には民主主義がない、外国に移民しようかと思いついでいた。（写真は当時の筆者）



おぼろげな記憶になっているが、その頃一人のエスペランチストが焼身自殺をした。今調べたら、由比忠之進という人だ。ベトナム戦争に抗議しての自殺だった。その時、政府の誰だったかは忘れたが、そいつが言うには、日本は民主主義の国だからこのような行動をするのではなくて、投票で意志を明らかにすべきだと言ったのだ。投票は民主主義の国でなくてもやっている。しかも、当時の選挙制度では自民党が多数を占めるのは自明で、自明の結果、国民は自民党を支持したことになる。自動的に多数が決まることが民主主義なのだろうか。少数意見の尊重は、ここには微塵もなかった。

で、新聞で見つけたのだ。カナダが移民を募集していると。親には内緒でカナダ大使館に出向き、移民の説明会に参加した。ところが募集している移民の職業は、床屋そして青焼きの技術者だというのである。青焼きというのは製図

での図版をコピーするための方法で、今では過去の技術だ。移民では、この二つの職業を求めていると。ということは、床屋か青焼きの職人で人生を送り、大学にいて自由に職業を選ぶというのは、私ではなく、私の子ども世代がやることになる。私はカナダでは「捨て石」だと理解した。で、移民は諦め、不満はあるけれど、この日本で生きていこうという思いにいたった。ところがその後、カナダ大使館から封書が届き、ちょっとした騒ぎになるのだが。

民主主義の定義は難しいと思う。常に追求する概念だから。そして、民主主義については、ヨーロッパでは血を流しただけではなく、多くの思想家があれやこれや議論をかさねてきた。しかしこの日本。明治ではドイツの政治を範として明治政府は国策を推し進めた。その後昭和になって、戦後アメリカでの占領下で民主主義が植え込まれた。いずれも、じつに効率のいい受容だったのだ。効率のいい受容は、すぐさま日本を最強の国家に押し上げるかもしれないが、脆弱な側面をもっている。あれやこれや逡巡し、行きつ戻りつの行程が、現在、改めて求められているのではないだろうか。

こうした模索により民主主義の制度は追求できるだろうが、その追求する主体、個々の人間についてはどうなのだろう。「公文書の改竄、捏造、破棄等々」をおこなっている公務員は、民主主義への希求があったのだろうか。有権者もまた、お世話になったとか、義理で投票したという話を少なからず聞くことがある。しかし、戦後、アメリカの占領下で民主主義が「定着」した唯一の国が日本だと知ると、日本の歴史のなかに民主主義に接続できる何かがあったはずだ。みんなの問題はみんなで解決しようと、村の寄り合いでの合議などがそうだろうか。そこに民主主義という言葉はなかったが、萌芽はあった。その萌芽をどのように育てたらいいのだろう。正念場の時がきたと思う。

(さわだせいいち：元編集者 フォーラム実行委員)

●4月のフォーラムニュースをお届けいたします●このところ岸田内閣の支持率が回復傾向にあるといいます。某テレビ局の世論調査では10%以上上がり、不支持率を超えたとのこと●しかしながら不思議なのは同じ調査で、その政策について尋ねるとほとんどが反対の方が上回っているということ●こうした傾向はこれまでもしばしば見受けられたものですが、いったい何を意味しているのでしょうか。一種の「ニヒリズム」にさえ見えてきます●自らの思いを一票にこめ、私たちの理想の実現を政治家に託する——それは「民主主義」の基本のはず。どうせ何も変わらないのだから、という「あきらめ」だけはもたないようにしたいものです●新しい企画も準備中。次号をお楽しみに！(0)